

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」に新規作品を追加
『関東大震災』[伊奈精一版] 公開のお知らせ
吉田律人氏と小森はるか氏のコラムも同時公開



左：『関東大震災』[伊奈精一版] 1923年 焦土と化した横浜市街地を俯瞰する



右：『関東大震災』[伊奈精一版] 1923年 神奈川県庁仮庁舎前の混乱ぶりと忙殺される庁舎内の人々

いつもお世話になっております。このたび、WEB サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）に、第8弾作品『関東大震災』[伊奈精一版] を公開する運びとなりました。

また、同日に二本のコラム（横浜都市発展記念館調査研究員の吉田律人氏による「映像に残った被災地、横浜—『関東大震災』[伊奈精一版] の分析を中心に—」、映像作家の小森はるか氏による「フィルムに残る、記録者たちの背中を追いかけて」）を公開します。

『関東大震災』[伊奈精一版]（14分 | 1923年 | 染色・調色）

劇映画の監督として戦前に活躍した伊奈精一が、日活入社以前に朝日新聞のニュースカメラマンとして活動していたという時期に撮影したと見られる震災映像。前半は他作品でも見られるカットでつながれているが、後半の横浜の場面はオリジナルと見られ、移動車から捉えた凄惨たる焦土や街行く被災者の姿とともに、県庁仮庁舎や海軍救護所で要人を写したカットからは、報道的な姿勢を読み取ることもできる。

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」とは（<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>）

- ★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）。
- ★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品のディテールをより深く、横断的に見ることができるようになっています。
- ★関東大震災発生から100年にあたる2023年9月1日までに、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指しています。
- ★「『関東大震災映像×専門知』によるコラムのページ」と題し、分野の異なる専門家が関東大震災映像を読み解くコラムの掲載し、随時更新しています。
- ★サイトで公開している関東大震災関連の映像に関する資料や、関東大震災と映像との関係を考えるうえで助けとなる資料を掲載し、随時更新しています。現在は、『関東大震災大火実況』の弁士台本など4点を公開中。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823 / FAX：03-3561-0830 / E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp

『関東大震災』 [伊奈精一版] クリップ一覧



場所：横浜／シーン：焼失、倒潰・損壊

激しい揺れによる倒潰とその後の火災によって焦土と化した横浜市街地を、山手の地藏坂から俯瞰したカメラによるパンニング撮影で捉えている。



場所：横浜／シーン：救助・救護・救援

片山東熊の設計により 1913 年に竣工した神奈川県庁は火災により焼失、9 月 3 日桜木町の海外渡航者身体検査所に仮庁舎が設置された。



場所：横浜／シーン：焼失、倒潰・損壊

本町通を移動する車から、壊滅的な被害を受けた周囲の街並みや、強い日差しを受けながら歩いている人々の姿を、カメラが捉えている。



場所：横浜／シーン：焼失、倒潰・損壊

税関構内をパンニングする画面から、倒潰した家屋、沈没した船の煙突、崩れた路面など、荒廃した四囲の光景が目飛び込んでくる。



場所：横浜／シーン：焼失、倒潰・損壊

海岸通を堀川方向へと向かう車中から見る通り沿いは瓦礫が続き、灰燼と化したグランドホテル跡が傷ましい。



場所：横浜／シーン：救助・救護・救援

横浜での救護に派遣された海軍により設置されたテントと、救急にあたった日本赤十字社岡山支部の活動を描く。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当

電話：03-3561-0823 / FAX：03-3561-0830 / E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp